教の手引 第一

020298-000-9

特61-224

教の手引　第1

星野　久成／著

M27

ABI-0104

自序

人間は一生涯中少くも一度は得意時代と失意時代とあり、初め得意時代には俗物と爲り、次に失意時代には厭世家と爲る者多し、而して俗物の儘にて死する者あり、厭世家と爲て死する者あり、稀には初より樂天主義を悟る者亦なきに非ずと雖も人間思想の變遷は大抵右の順序に由るが常とす、史を案ずるに古來社會の道德宗教上の傾向も亦一箇人思想の變遷に等しきが如し、若し人宗教に依り眞正の樂天家として靈魂上の樂を味ふを得ば、得意時代にも世俗と共に腐敗するとなく、失意時代にも世を厭ひ人を怨むとなからん、過去は將來の教師なり、冀くは前轍を履む勿らんとを。

左の問答書は卑近通俗を旨とし普く世人に頒布せんとを期す、若し是に由り幾分か讀者の宗教心を喚起し基督教を學ぶの一助とならば幸甚

明治廿七年十月

著者誌

教の手引

第一

問　貴下は善と惡との孰を御好みですか、

答　勿論私は善を好みます、

問　何故ですか、

答　若し善を爲ますれば第一自分の心が平和であります、又私が行が他人に知れましても耻ると私を愛し樂も望も增します、それから年老ても

益々幸福になります。

殊に天父(神)は私を愛して私に幸福を與るを喜び給ふと思ひます、

若し悪を爲ますればそれを思出す度に心苦しく怖ろしく慚ぢ入りますから自然兩親や朋友も私を嫌ひ世の中に依賴者となる人がなくなり年老ば益々悲しくなり、金錢山の如くありても眞實に助る人がなくなります、殊に神の怒を蒙りますから悔改めなければ必ず罰を受ます、

(三) 問 至極御尤です。扨貴下は今迄不善を爲た覺はありませんか、罪障はありませんか、

答 正直に申しますれば罪障を犯したと思ひます、不善事と知りつゝ爲たことがあります、

(四) 問 自分で不善を爲たと思へば何等心持ですか、

答 思出す毎に悲しく殘念です、此より私から種々御問申度ございます、

第二章

(五) 問 私は今迄不善を爲た事に氣が付ましたが、今

後如何したら宜敷ございますか、

答　貴下ばかりではありません、凡ての人多少罪障なき者はありませんが、自分の罪障に氣の付ぬ人が多ございます、

然し貴下が以前の悪行に御氣が付ましたら心底から悔改めて可及的之を回復し再び爲さない樣に心掛ねばなりません、

（六）問　私の過去の罪障は如何なりますか、善悪の應報はありますか、

答　罪を犯せば罰を受るは確實です、如何なる罰を受るか其方法は神ならぬ吾々が明言は出來ません、然し貴下が以前の悪事を思出す時悲く殘念に思ふのは心を苦むる罰の一です、若し其罪が大なる時は終に發狂となる事もあります、

政府の法律を犯せば相當の罰を受ると同じく道德上でも神の定律を犯せば亦其罰の來るは當然です、之と同じく善には善報のあるも確實です、

（七）問　成程、然し善人が時々苦痛を受け悪人が反て幸

福を受る事がありますから善因善果、悪因悪果と云ふ事も必然ではありますまい、

答　一應御尤ですが、それは人間の運命の表面のみを見たものです、一躰幸福とは如何者か御存知ですか

眞の幸福は財寶や名譽や位地抔ではありません、通例世人は此等を好みますが決して永續致しません、永遠不易眞正の幸福は人の心中に在ります、

若し正善の爲め一時苦を受る事が往々ありましても善人の心中には大望と平安があります、又悪人は外面富裕に見へても心中の苦は金錢に換へられぬものです、それ故善悪の應報は確實です、

（八）問　成程、然しまだ分らぬ事があります、悪人が悪報を受るのは分りましたが、善人が苦を受る事時々あるのは何故ですか、

答　それは昔から人の迷ふ問題です、唯自分が耻る

事さへ爲さなければ如何なる苦を受ても心中平安で毫も怖る事はありません、全躰苦痛は神が人間を教育鍛錬て心を發達させる方法でありますから、若し其苦を忍耐ば以前に增して歡喜と幸福が必ずあります、此は貴下の御經驗でも御分りになりませう、

勿論私共は神の目的を悉く知て御咄致譯には參りませぬ、唯神は吾々を保護するに相違なしと信じて滿足するが宜敷ございます、

第三章

(九)

問　何故宗教は人間に必要ですか、

答　世の中には目に觸れ耳に聽く所種々心を迷はす物が澤山ありますから、若し生涯を送るに何か一定の目的なければ何の道を歩て宜敷ものかと常に心換するものです、

それで知らぬ旅路を行くとき案内者が要用なると同じ譯にて一寸先は分らぬ世の中を生涯渡るにも迷はぬ爲めには案内者が必要です、左なく

んば始終途中に彷徨して目的に達する事は出來ません、

（十）問　宗教の案内者は誰ですか、

答　イエス、キリストです、

（十一）問　イエス、キリストとは如何人物ですか、

答　イエスは神の子にして私共人類の罪過困苦を救はん爲め神より此世に遣はされたる者です、故にイエスは人類の教導者にして又救主であります、

（十二）問　神の眞理を顯示したる人はイエスの外にもあると思ひますが貴下が特にイエスを教導者と尊まるゝは何故です、

答　昔より道を教へし聖賢は數多ありますが唯一の大教師はイエス、キリストなりと信じます、何故と云ふにイエスは諸教師中で最高大最完全者にして其教訓は最實際に通ずる福音にして其口に教ふる所は皆自身の生活より出で言行一致して居りますから吾々の最善雛形として尊敬

致します、
それ故何人もイエスの教訓に從ひ其生活に倣ふときは此世の旅路を安全に渡るとが出來ます、

（十三）問　然らばイエス、キリストの主要なる教訓を少々伺ひ度ございます、

答　イエスは神と人間との關係は恰も父と子と同樣だと教へられました、それ故神は私共の父で、私共は皆神の子供で、子供は皆互に兄弟です、右の譯合が御分りに成りますれば吾々は全力を

盡して父なる神を愛し、又兄弟同志互に相愛さねばならない譯ではありませんか、人に爲れ度と思ふ事は自分も亦人に爲ねばなりません、

私共がイエスを信仰し罪過を悔改め其道を守れば從前の罪過は赦されて永く天國に生れて住む事が出來るとイエスは約束されました、

第四章

（十四）問　イエスの傳記だの又私共の心を平安幸福に保つ方法だの伺ひ度ものです、

答　それは御咄申度と思ますが種々長くなりますから孰れ此後御目に掛て委細御咄致ませう、

（十五）問　尚一伺度のは日曜日抔に信者が會堂に集るのは何故ですか、

答　貴下が若し正道を守て行ふと御思召なら度々會堂へ御出に成るが宜敷ございます、會堂は神を禮拜し心を清め汚を去る爲め信者の集る所ですから貴下の宗教心を養ひ汚穢に迷はぬ樣互に助合ふに便利であります、

然るに貴下がいくら堅固でも隱者の樣に獨坐沈思て居りては貴下の品性を修養に不便です、宗教の目的は沈思たり討論するのでなく教訓を實行する爲めです

序に御咄申度事があります、世間には基督教を種々惡口する人がありますが人の惡口には御頓着なされぬが宜敷ございます、若し私共の御咄申した事を御疑なさるなら、眞面目となり公平の心を以て判斷し自分の行爲に當嵌て一つ御試し下さい、左すれば眞か虛か貴下の御實驗で分ります、

明治廿七年十月廿三日印刷
同　廿七年十月廿六日出版

發行

發行兼著述者　東京市小石川區小日向水道端一丁目十四番地　星野久成

發行所　東京市麹町區飯田町四丁目五番地　宇宙神教出版所

印刷者　東京市京橋區西紺屋町二十六番地　高田乙三

印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　株式會社秀英舍